

# 宗谷地域の防風林施業について ～造成50年を経て更なる機能発揮への取組と検証～

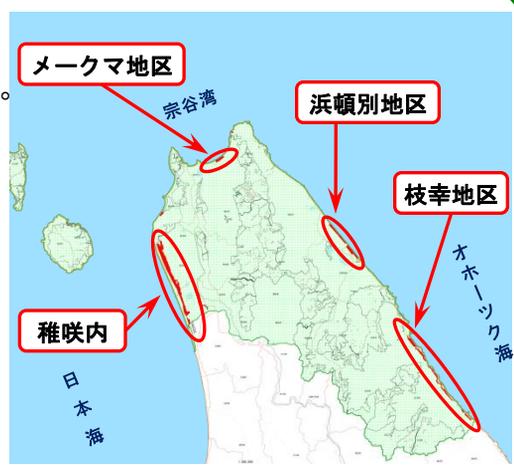
宗谷森林管理署 森林技術指導官 中家 響

## 事業の背景・目的

宗谷地域は、三方を海に囲まれ一年を通して強風にさらされる厳しい環境にあります。海岸線においては、戦後の乱伐や大火等により無立木地になるなど、過去には多くがササ生地となっていました。

そのような中、地元からの強い要請を受け、酪農地帯を風害から守るために海岸防災林造成事業が昭和45年から開始されました。厳しい条件下で試行錯誤を重ねた結果、稚内市メークマ地区をはじめ各地区に防風林が造成されました。

しかし、50年が経過した現在、密植施業により樹冠密度が高く枝の枯上がりや下層植生の消失が発生し、公益的機能が低下しています。このような状況から、将来にわたり活力ある森林として機能を最大限に発揮・維持していくために、効果的・効率的な森林整備を行い、さらには民有林を含めた防風林施業を確立することを目標とし、計画的に進めてきました。



宗谷署管内の主な海岸防災林



本数調整伐前



本数調整伐後

## 取組の内容

- ① 平成26年度にはメークマ地区において学識経験者を招致し検討を重ね、今後の施業方針となる全体計画を策定し、平成28年度は浜頓別地区でも全体計画を策定しています。
- ② 全体計画では、育成単層林型の現在林分を100年生程度まで健全に長く維持しながら防風効果を発させるため、防風林のゾーニングを行い施業方法や伐採時期を定めています。
- ③ 平成27年度から本数調整伐等の施業を国有林の防風林で開始、平成30度までにメークマ地区で4箇所、浜頓別地区で2箇所実施しました。
- ④ 施業効果を確認するため、平成27年度から本数調整伐を実施した箇所等でモニタリング調査等を実施しました。
- ⑤ 防風林の間伐等施業に関して、民有林関係者との情報交換や技術交流を実施するため、宗谷流域森林・林業活性化協議会に「海岸防災林に関する部会」を設置し、平成29・30年度に防風林施業に関する現地検討会を開催することにより、間伐方法等について検討するなど、防風林施業の普及に努めています。

## 今後の展開と課題

防風林や密植状態の林分での施業には多くの制約があり、以下の課題について、組織として長期的・継続的な取組が必要となります。

- ① 効率的な施業方法の確立
- ② 現地残材の処分方法等の検討
- ③ 防災林の機能発揮と維持

今後は、長期的なモニタリング調査を行い、施業方法なども細かく検討するなどPDCAサイクルにより都度全体の検証・検討を繰り返し、計画を改善し実行していきます。

また、民国連携のもと技術交流を行い、将来的には宗谷地域の防風林施業の確立を目指していきます。

